

運動する楽しさを味わい、 進んで運動に親しむ児童の育成

大分県中津市立如水小学校

全校児童数	366名(男子名189 女子177名)		
全クラス数	15	教職員数	32名
体育専科教員訪問学校数			6校
訪問校	前期 北部小、豊田小、鶴居小		
	後期 樋田小、沖代小、和田小		
体育専科教員名		本田 賢一	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆児童アンケートで「外でよく遊ぶか」の問いに対して「よく遊ぶ」A層の児童の割合が全体の60%である。このことから、進んで体を動かそうという子どもの割合がやや低いといえる。

2 取組の計画

- ① 教職員の体育授業の基礎的な知識・技能の向上をめざす。(場の工夫、ライン等の効率的な引き方、用具の効率的な使用例、危険予知、補助の方法等) 授業実践経験の積み重ねを通して、授業力向上を図る。
- ② つけたい力に応じた授業計画の相談への対応。

Do：実践内容

1 ハンドボール(3, 4年ボール運動)

(1) ボールを持ったらシュートをねらおう

- ① ボールを持ったらシュートをねらう習慣を身につけさせることで、投げる動作の習得、高学年につながる守備の意識等を身につけ、得点する楽しさや、シュートを防ぐ楽しさを感じ取らせる。

2 運動会競技の用具開発と制作(訪問校)

(2) 「台風の目」の棒をより安全に

- ② 通常竹等の堅い木材を使用するが、塩ビパイプと凍結防止用カバーを組み合わせ、安価で簡単に作ることができる棒の開発と製作。

棒が柔らかく、持ちやすくなったことで、児童が運動会競技に積極的に参加し、運動の楽しさを実感することができていた。

●工夫したこと(&苦勞した点)

- ① 訪問校での生徒指導上配慮を要する児童の把握とその指導。
生徒指導に時間がかかり、体育本来の授業時間が少なくなっている。体育専科も生徒指導に参加することで改善され、教師の指示が通りやすくなった。
- ② 教師用指導動画の作成。
「かかえこみとび」の指導方法がわからないという質問に、教職員用指導要領を動画で作成し当該教師のみならず若手教員にも広めることができた。

Check：取組の成果

- ① 生徒指導が安定してくると、体育の授業に集中でき、結果技能も習得しやすくなり、体育授業や運動に対し好意的になってきた。
- ② 映像を交えて指導すると、スロー再生や繰り返しができ、データ化することでたくさんの教師に共有させることができた。

Action：今後の課題

- ① 訪問校における場の工夫。勤務校と広さや道具の有無が違うため、綿密な打ち合わせ、道具の輸送方法が必要。
- ② 勤務校、訪問校での成果と課題をより多くの教職員に周知し、体育の授業力向上をめざす。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

体育の授業の様子がその他の教科や生徒指導、学級経営に好影響をあたえる。

ハンドボール

16:42 1月23日(月) 2022年11月25日 10:46



思い切ってシュート！

ゴールが狙えそうなら、とにかくシュートをうってみよう！

右投げならば左足が前とゲームを通して投げる力が身につきました。

16:43 1月23日(月)

2022年11月25日
10:46



ゴール前の攻防

ボールが柔らかく操作しやすいので、みんなが積極的にボールを追い、GKも安心してセービングができています。